

文化財の多言語解説案内板の制作指針

文化庁
令和2年3月

はじめに

政府は、「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、2020年までに訪日外国人旅行者数4000万人の達成に向け、各種施策を実施しています。

そのような中、訪日外国人旅行者が文化財や国立公園といった地域の観光資源を訪れた際、解説文の表記が不十分等の理由により、魅力が伝わりにくいといった課題が指摘されています。

これに対し観光庁では、日本文化に精通し多言語化に対応可能なネイティブ人材をリスト化し、訪日外国人目線による観光資源の英語解説文を作成する地方公共団体等を支援し、そのノウハウの横展開を行っています。

文化庁では、この解説文を活用し、VR/AR技術・アプリケーション・QRコード等の先進的・高次元な表現手法を用いた魅力的なコンテンツを制作する事業に対しても支援を行っています。平成30年度には、解説案内板に設置したQRコードからモバイルサイト等に接続し、文化財の解説動画などが閲覧できるシステムの開発を支援した例もあります。

一方で、多言語解説文を解説案内板などの媒体へ落とし込む際に、書体(フォント)や行間スペース等の編集レイアウトが、外国人の視点から読みにくいものになっているとの課題も指摘されてきました。

こうした指摘を踏まえ、文化庁では、多言語解説案内板の制作にあたり、外国人の視点を踏まえた多言語解説文の編集レイアウト等の方針をまとめた「文化財の多言語解説案内板の制作指針」を作成することとしました。

同指針には、文化財を英語で表現する際のローマ字表記等文章のスタイルに関する留意点や、解説案内板に表示する際の書体・カラー・行間・余白など編集デザインに関する留意点を記載しています。これらに加え、解説案内板に新たに文化財マークを付して、訪日外国人に文化財であることを理解していただくこととしています。

文化財は、我が国の歴史、文化の正しい理解と国民の誇りのため欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上発展の基礎をなすとともに、地域の活性化、さらには、世界に日本の魅力を発信していく上でますます重要なものです。

この指針をご活用いただき、外国人に魅力的で分かりやすい多言語解説文の作成とともに、見やすい解説案内板の制作にご協力いただけますと幸いです。

目次

第1章	総論	3
1_1	本指針で対象とする範囲	4
1_2	本指針の構成	5
1_3	解説案内板の設置指針	5
1_4	解説案内板の設置にかかる検討事項	6
第2章	解説案内板の制作指針/新規制作	7
2_1	基本方針	8
2_2	構成要素	9
2_3	文化財ロゴマーク	10
2_4	文化財名称	11
2_5	文化財種別名称	13
2_6	解説文	14
2_7	指定等機関名称	14
2_8	書体(フォント)	15
2_9	カラー	16
2_10	使用例	17
2_11	使用禁止例	19
第3章	解説案内板の制作指針/既存活用	20
3_1	基本方針	21
3_2	構成要素	21
3_3	文化財ロゴマーク	22
3_4	使用例	23
3_5	使用禁止例	24
第4章	編集デザインの方針	25
第5章	文化財ロゴマーク	38
5_1	位置付け/対象範囲	39
5_2	文化財ロゴマーク	40
5_3	最小使用サイズ	40
5_4	余白	41
5_5	カラー	41
5_6	使用例	42
5_7	使用禁止例	43
第6章	その他案内板の方針	44

第1章

総論

1_1 本指針で対象とする範囲

本指針において、文化財の多言語解説案内板(以下、「解説案内板」という)とは、以下を対象とします。

- 新規に解説案内板を制作する場合
 - 既存の解説案内板を使用して見直す場合(支持躯体を使用する場合)
- 本指針における「文化財」とは文化財保護法または地方公共団体の条例等で指定等により保護されているものを指します。
- なお、本指針では、主に英語による解説案内板の制作にあたっての留意点を記載します。

1_2 本指針の構成

本指針はここに示す内容によって構成されています。

A. 解説案内板の制作指針

①「解説案内板の設置指針」

解説案内板を設置する際に準ずべき指針を示しています。

②「解説案内板の制作指針」

新規で解説案内板を制作する場合の制作指針および既存の解説案内板を活用して解説案内板を見直す場合の制作指針を示しています。

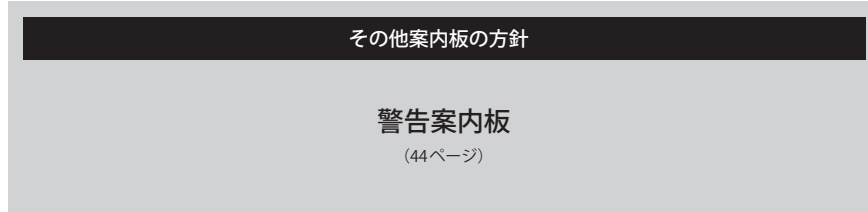
③「文化財を示すロゴマークの使用規定」

文化財であることを示す象徴的要素として文化財ロゴマークの使用規定を示しています。



B. その他案内板の方針

文化財の所有者/管理者等からのニーズが高い警告案内板についての方針を示しています



1_3 解説案内板の設置指針

ここでは解説案内板の設置についての指針を示しています。

新規に解説案内板を制作する場合、屋外広告物法や文化庁「史跡等整備のてびき」等に基づき地方公共団体等が作成する整備基本計画や地方公共団体が定める基準等に準じて設置してください。

計画等が作成されていない場合、以下の留意点のもと十分に検討の上、設置してください。

- ・文化財と共存するにあたって景観を損ねていないか？
- ・該当する文化財を説明するのに適切な場所に設定しているか？
- ・適切な誘導計画やサイン計画となっているか？

1_4 解説案内板の設置にかかる検討事項

文化財の所有者/管理者等の事業者は、解説案内板の設置にあたり、以下に示す項目を参考に、検討してください。

現状の確認

新規に解説案内板を制作する場合

本指針の「第2章 解説案内板の制作指針/新規制作」を参照。

既存の解説案内板を活用して見直す場合

- ・設置場所の規制
- ・掲載内容
- ・(支援事業の場合は)事業者名と施工年
- ・切り替え可能時期

整備方針の決定

— 支持躯体を使用し盤面は新規で作成

— 耐用年数が完了するまで現状の解説案内板を使用

— 耐用年数に関係なく必要な手続きをとって破棄

— 耐用年数後は「破棄する」または「新規に解説案内板を制作する」

解説案内板の制作指針/新規制作

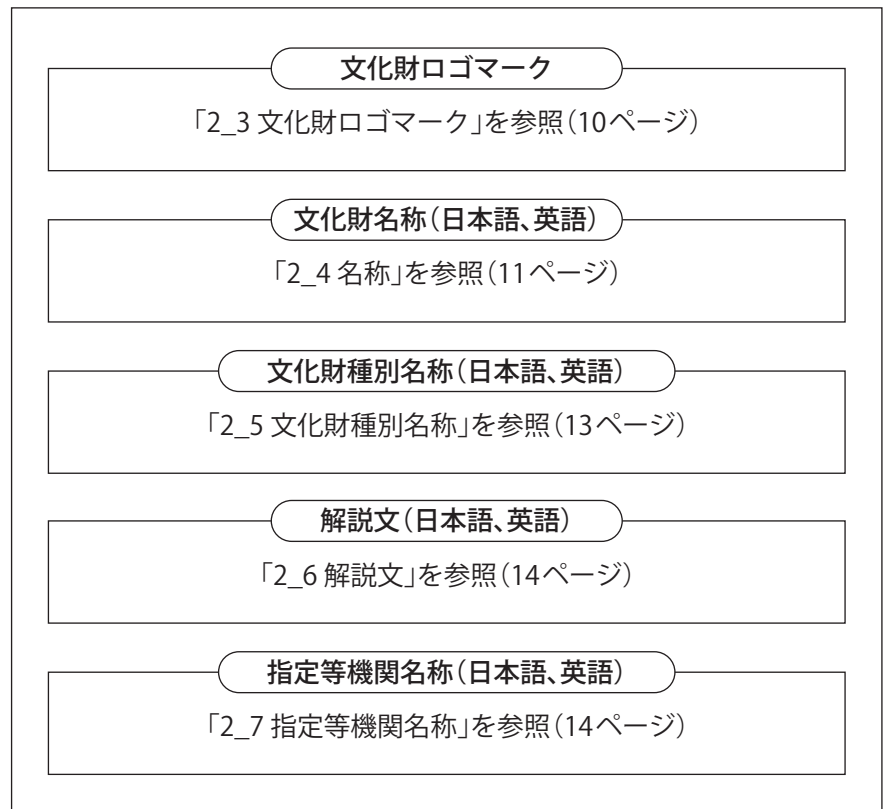
2_1 基本指針

新規に解説案内板を制作する場合、本章で示している指針を参考にしてください。

文化財の所有者/管理者等は、制作/施工事業者への業務発注内容を検討する際、次項に示す「構成要素」や「編集デザインの方針」を反映するよう心がけてください。

2_2 構成要素

文化財の解説案内板に掲載する構成要素は、以下の通りです。



解説案内板に掲載する上記以外の要素は、制作する目的、識別性、可読性、審美性から検討してください。

デザイン面の留意点

構成要素を掲載・表示するにあたって参照すべき留意点です。

書体(日、英)

「2_8 書体」を参照
(15ページ)

カラー

「2_9 カラー」を参照
(16ページ)

2_3 文化財ロゴマーク

「第5章 文化財ロゴマーク」を参照します。



文化財ロゴマークのサイズ、カラー、配置場所は、特に留意して設定・配置してください。

2_4 文化財名称

文化財名称_日本語

文化財を示す日本語の名称は、以下のウェブサイト等にある適切な名称を使用してください。

- 国指定文化財等データベース
<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>

- 文化遺産オンライン
<https://bunka.nii.ac.jp/index.php>

ただし、文化財名称の中には「呼称の知名度が高い」「指定等名称だけでは示している文化財が把握しにくい」といったものがあります。そのような場合は公共サインや観光ガイドブック等との整合性や知名度等を考慮し、「呼称」を使用することは妨げないものとします。

なお、規則等が決められているカテゴリーの文化財名称は、その指示に従ってください。

例) 史跡、名勝 等

文化財保護法で指定等がされた 文化財名称_英語

文化財を示す英語名称は、以下の方針を参照の上、作成してください。

該当する文化財の英語名称が以下の指針等で使用されているか否かを調査し、英語名称がこれらの一般に流通している既存の媒体に存在している場合には、その名称を使用してください。

- 地図
- 公共サイン
- 観光ガイドブック
- 観光案内パンフレットや文献
- ウェブサイト
- 地方公共団体が独自で制定した観光資源を多言語で紹介するための指針
- 観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物
等

英語名称が上記の媒体に存在していない場合には、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物で紹介されている英語名称等を参考にして、既存の媒体と整合性がある名称を作成してください。その際、日本語や文化財の基礎知識がない人でも理解できる名称にしてください。

※観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物は観光庁のHPに掲載しています。本事業が継続して行われる場合は、事業進捗に応じて内容を改訂しています。

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/multilingual-kaisetsu.html>

2_5 文化財種別名称

国が指定等をした 文化財種別名称(日本語/英語)

国が指定等をした文化財種別名称(日本語/英語)は、文化財保護法によって分類される名称を使用します。

英語表記の際、単数または複数については、該当する文化財によって判断してください。

日本語	英語
国宝	National Treasure (Treasures)
重要文化財	Important Cultural Property (Properties)
重要無形文化財	Important Intangible Cultural Property (Properties)
重要有形民俗文化財	Important Tangible Folk Cultural Property (Properties)
重要無形民俗文化財	Important Intangible Folk Cultural Property (Properties)
史跡	Historic Site (Sites)
名勝	Place (Places) of Scenic Beauty
天然記念物	Natural Monument (Monuments)
重要文化的景観	Important Cultural Landscape
重要伝統的建造物群保存地区	Important Preservation District for Groups of Traditional Buildings
特定保存技術	Selected of Conservation Technique (Techniques)
登録記念物	Registered Monument (Monuments)
記録作成等の措置を講ずべき無形文化財	Intangible Cultural Property (Properties) that need measures such as documentation
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	Intangible Folk Cultural Property (Properties) that need measures such as documentation
登録有形文化財	Registered Tangible Cultural Property (Properties)
登録有形民俗文化財	Registered Tangible Folk Cultural Property (Properties)

地方公共団体が指定等をした 文化財種別名称(英語)

地方公共団体が指定等する文化財種別名称(英語)は、各地方公共団体の条例等を参照の上、作成してください。

2_6 解説文

国または地方公共団体が指定等する文化財の解説案内板に掲載する解説文(日本語、英語)は、以下の手順を参照の上、作成してください。

1. 調査

該当する文化財については、以下の媒体に掲載されている解説文を確認する。

- 観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物で作成されている解説文
- 観光ガイドブック
- ウェブサイト等

2. 訪日外国人目線の確認

「魅力的な多言語解説作成のポイントをまとめた指針(特にP.14「解説文作成における基本的な考え方」参照)」を参考に、訪日外国人旅行者の目線で取り組む制作方針を確認する。

3. 専門家を活用した解説文制作

訪日外国人目線で理解しやすい解説文制作のための専門家*を活用し、文化財の知識がなくても分かりやすい解説文になるよう心がけて作成してください。

また、「文化財の多言語化ハンドブック(平成31年3月発行文化庁)」に掲載されている分かりやすい解説文の事例等を参照の上、作成してください。

2_7 指定等機関名称

上記の要素に加え、指定等機関名称を記します。国が指定等する文化財は「文化庁」などを記します。

※専門家についての詳細は、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の「魅力的な多言語解説作成指針」を参照してください。
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/multilingual-kaisetsu.html>

2_8 書体(フォント)

新規に解説案内板を制作する場合、以下を参照の上、書体の選定を行ってください。

書体は解説文の読みやすさだけでなく、見た目の美しさを高める重要な要素です。また同じ書体サイズであっても、日本語と英語では可読性は異なります。

国または地方公共団体が指定等する文化財の多言語解説文を解説案内板として制作する欧文書体は、以下の基本方針に準じて選定してください。

[基本方針]

- ・和文書体と欧文書体の組版の知見に長けたデザイナーに相談する。
- ・和文書体と調和し、可読性の高い欧文書体を選定する。
- ・太さ等のバリエーションが多い欧文書体を優先的に選定する。

解説案内板において和文書体と欧文書体を組み合わせる場合、また同一盤面上に表記する場合、「第4章 編集デザインの方針」を必ず反映してください。解説案内板制作のための推奨欧文書体を以下に示します。

セリフ系

和文における明朝体に類する、文字のタテヨコの線の強弱が強く、「ウロコ」等と呼ばれる飾りが線の端につけられた書体。

Baskerville

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Caslon

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Garamond

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Georgia

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Times

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

サンセリフ系

和文におけるゴシック体に類する、文字の線が一定に近く、「ウロコ」等の飾りが無い書体。

Frutiger

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Gill Sans

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Helvetica

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Myriad

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

Arial

ABCDEFGHIJKLM
abcdefghijklmn

2_9 カラー

カラーは解説案内板の存在感を高めるだけでなく解説文を読みやすくし、見た目の美しさを高める重要な要素です。文化財の多言語解説文を解説案内板として制作する際のカラーは、以下の基本方針に沿って選定してください。

[基本方針]

- ・カラーの知見に長けたデザイナーに相談すること。
- ・存在感のあるカラーの組合せや可読性の高いカラーの組合せを選定すること。
- ・ユニバーサルデザイン※に従ったカラーの選定や組合せであること。

※ユニバーサルデザインとは、年齢・性別や文化・言語・国籍などの違い、さらには障がいの有無や個人間の能力差などを問わずに使いやすいことを目指したデザインの思想です。

解説案内板を新規で制作する場合

a) 可動式

b) 固定式

が、考えられます。

a) 可動式

設置工事が不要です。様々な可動式解説案内板があるため解説案内板の設置条件等を考慮して選定してください。



b) 固定式

解説案内板の設置工事を行います。関係法令に基づいた許可手続き等が必要な場合がありますので、事務処理期間を考慮してください。



解説案内板の制作指針 / 既存活用

3_1 基本指針

既存の解説案内板を活用する場合、解説案内板の盤面および支持躯体の利用方法から諸条件を整理し、それぞれの指針に準じて制作してください。

	解説案内板の盤面	解説案内板の支持躯体	指針
A	既存を利用する	既存を利用する	文化財ロゴマークはコンテンツが編集デザインの方針に従っている場合のみ使用できる。
B	差し替える	既存を利用する	「第2章 解説案内板制作指針/新規制作」に準ずる。

意思決定手順は「1_4 解説案内板の設置にかかる検討事項」を参考にして取り組んでください。

3_2 構成要素

既存の解説案内板に使用する要素は以下の通りです。

既存の解説案内板

以下の項目を掲載してください。

※以下の要素について不足または不適切な表示の場合、上記の「B」をご確認ください。

- 文化財名称(11ページ)
- 文化財種別名称(13ページ)
- 編集デザインの方針に準じた解説文(14ページ)

文化財ロゴマーク

「第5章 文化財ロゴマーク」を参照

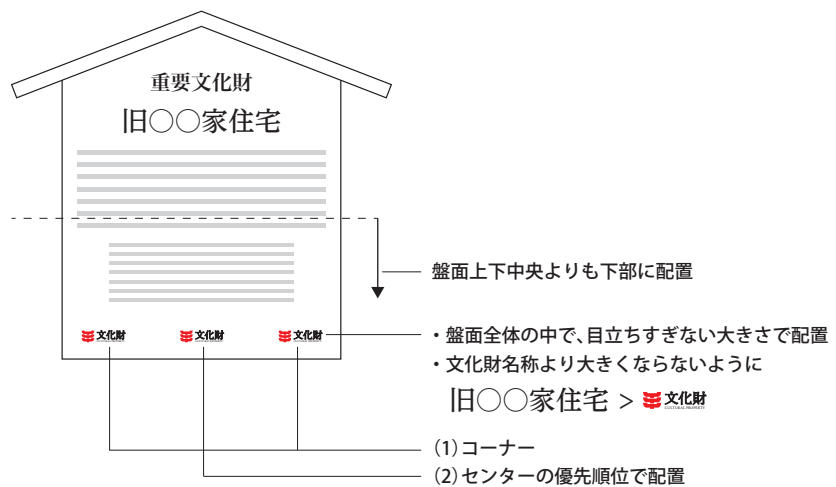
3_3 文化財ロゴマーク



「文化財名称」「文化財種別名称」「編集デザインの方針に準じた解説文」が揃っている場合は、文化財ロゴマークを使用することができます。

「第5章 文化財ロゴマーク」を参照します。

文化財ロゴマークのサイズ、カラー、レイアウトについては特に留意して設定・配置してください。



サイズ

文化財ロゴマークのサイズは、原則

- 配置する盤面全体の中で、目立ちすぎない大きさと配置。
- 文化財名称より大きくならないサイズにしてください。

文化財名称が極端に小さいサイズの場合はこの限りではありません。

カラー

文化財ロゴマークの背景色は透過しています。設置する場所の色に合わせて文化財ロゴマークのカラーを選定してください。

レイアウト

文化財ロゴマークは、まず

- 盤面の下部
- (1) コーナー (2) センターの優先順位で配置します。

3_4 使用例

A. 既存を利用する

文化財ロゴマークを使用する

既存の解説案内板に文化財ロゴマークを使用する場合、文化財ロゴマークは主となる位置には配置しないよう心がけてください。また文化財ロゴマークが展開できる場所が確保できない場合は、支持躯体を生かすなどして設置してください。

解説案内板エリア内に文化財ロゴを配置する(ロゴマークシールを貼る等)



文化財ロゴマークの配置場所が確保できないため支持躯体に固定板を設置する



3_4 使用例

B. 差し替える

「第2章 解説案内板の制作指針/新規制作」に準じる

既存の支持躯体を生かして解説案内板を差し替える場合

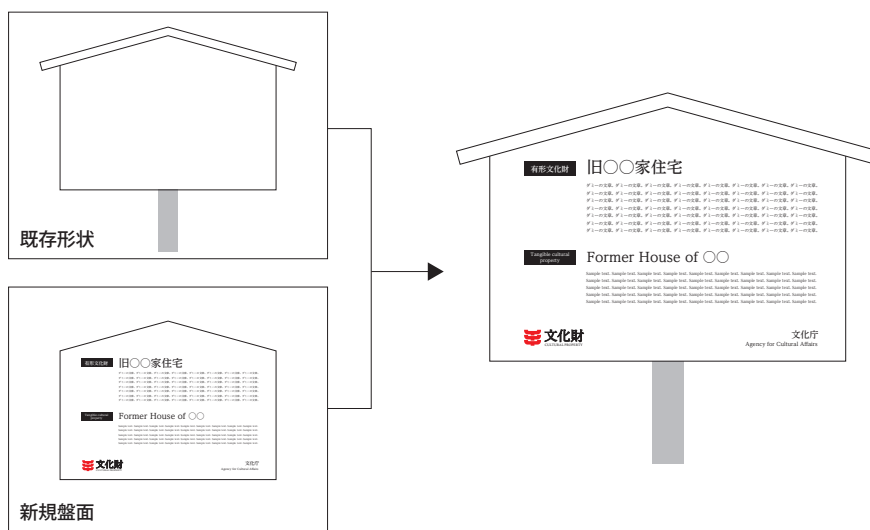
a) 既存の形状を反映する

b) 支持躯体を利用する

などを、行います。

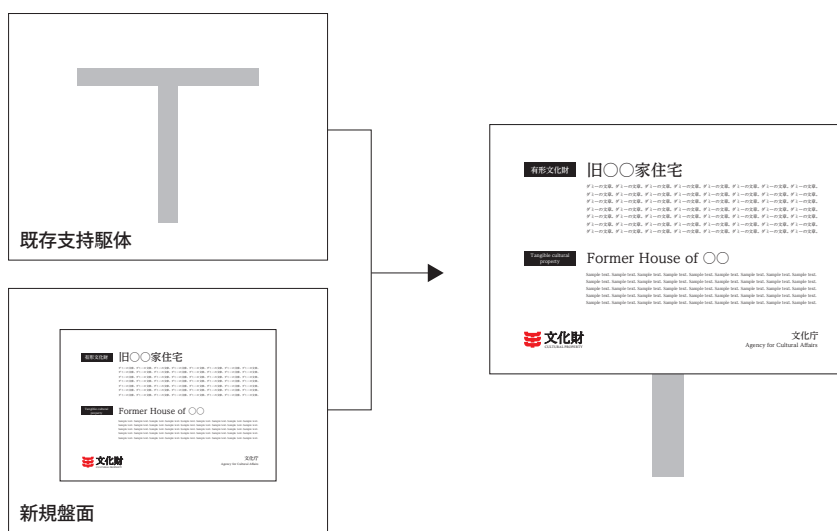
a) 既存の形状(盤面+支持躯体)を利用する

既存の形状を生かして案内板の盤面を新規に作成して設置します。



b) 支持躯体を利用する

既存の支持躯体に、多言語解説案内の盤面を新規に作成して設置します。



3_5 使用禁止例

既存の解説案内板を利用する場合にすべきではないポイントを示します。



文化財ロゴマークのサイズが不適切



文化財ロゴマークのカラーが不適切



文化財ロゴマークの配置が不適切

左：文化財ロゴマークが盤面の上部エリアにある

右：文化財ロゴマークが既存解説案内板から独立し、かつ文化財名称よりも大きい

編集デザインの方針

4 編集デザインの方針

編集デザインの方針は、解説案内板の存在感を高めるだけでなく、多言語解説文を読みやすくし、見た目の美しさを高める重要な方針です。文化財の解説案内板をデザインする際、以下の項目ごとの編集デザインの方針に準じて進めてください。

- 使用辞書
- 日本語のローマ字表記
- 長母音
- イタリアック体と引用符
- 人物・施設の名称
- 大文字
- 暦と時代
- ハイフン、エンダッシュ、エムダッシュ
- 数と単位
- 金額
- 寸法・距離

観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物にあたる「観光資源の英語解説文制作マニュアル/ Writing and Style Manual English for Sightseeing Destinations around Japan」を参照してください。

- 大文字 小文字
- 見出し
- 数字
- ハイフンによる分割
- インデント
- 約物(やくもの)
- 頭揃えの改行
- ぶら下がり
- 視覚補正
- ワードスペース(大文字)
- ワードスペース(小文字)
- ワードスペース(大文字+小文字)
- ワードスペース(長文)
- 行間(短文)
- 行間(長文)
- マージン

次項を参照してください。

※観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物にあたる「観光資源の英語解説文制作マニュアル/ Writing and Style Manual English for Sightseeing Destinations around Japan」は観光庁のHPに掲載しています。

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/multilingual-kaisetsu.html>

	以下の項目については、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物にあたる「観光資源の英語解説文制作マニュアル/ Writing and Style Manual English for Sightseeing Destinations around Japan」より抜粋します。
使用辞書	英語の単語のつづりとハイフンについては、オンライン版 Merrian-Webster Dictionary を参照します。
日本語のローマ字表記	日本語のローマ字表記は最小限に留めます。
長母音	英語の文章中、日本語のおお、おう、うう、しょう、しゅう等の長母音をローマ字で表記する際、マクロン(長音符)を使うかどうかは注意深く決める必要があります。
イタリック体と引用符	文学・芸術作品の題名や、英語にとつての外国語の単語はイタリック体にします。
人物・施設の名称	人名：原則として、習慣に従い日本語の名前は苗字を先にします。 施設、社名、ブランド：一般に、各単語の頭文字のみを大文字にします。
大文字	地名、公式名称、施設などについては、英語と同様に頭文字を大文字にします。
暦と時代	暦：西暦を使います。 時代：本事業では、「時代」について、era と period を次のように区別します。 ・Era(元号)：平成、明治、大正、昭和、平成などの区分 ・Period(歴史上の区分)：一般的な時代区分
ハイフン、エンダッシュ、エムダッシュ	ハイフン：ハイフンは、複数の単語をつなげて複合語にしたり、文章を読みやすくしたりするために使用します。 エンダッシュ：エンダッシュは、期間(1603-1867など)やページ番号のように、数字や単語をつなげる際、および、等価な二つのものを並列関係を示す際に使います。 エムダッシュ：エムダッシュは、文の途中で情報を補足する際に使い、通常は文の流れを中断する部分をはさむ形をとります。
数と単位	1から9までの数字、および、文の先頭にある数はアルファベットで表記します。序数についても、同様の原則を適用します。
金額	価格や料金を表記する際は、1から9までの数でも、アラビア数字を使用します。
寸法・距離	日本で標準的に使われるメートル法に従います。

その他、以下の項目についても留意して解説案内板を制作してください。

大文字/小文字

長い文章を読みやすくするためには、大文字と小文字を混ぜて使用する方が適しています。

大文字のみで組んだ場合の例：

IT WAS AT KAMAKURA, DURING THE SUMMER HOLIDAYS, THAT I FIRST MET

大文字と小文字で組んだ場合の例：

It was at Kamakura, during the summer holidays, that I first met Sensei.

見出し

見出しは本文の内容を簡潔に説明するためのものです。見出しの書体は基本的には本文で使用している書体のファミリー*を使うことが無難です。

数字

数字にはアラビア数字(12345)とローマ数字(I II III IV V)があります。基本的にはアラビア数字が使われます。アラビア数字にはオールドスタイル数字(12345)とライニング数字(1²3⁴5)がありますが、数字デザインの方針を設定し利用してください。

オールドスタイル数字の例：

The guest house was established in 1617.

ライニング数字の例：

The guest house was established in 1617.

ハイフンによる分割

ハイフンによる単語の分割のことを「ハイフネーション」といいます。下記の例のように、文章中の文字間が著しくばらつくような場合に、行末の単語を分割してばらつきを調整するなどに使います。全体バランスから方針を設定し調整してください。

ハイフネーション無し：

Often, during my association with Sensei,
I was disappointed in this way.
Sometimes, Sensei seemed to know that I

ハイフネーション有り：

Often, during my association with Sensei,
I was disappointed in this way. Some-
times, Sensei seemed to know that I had

インデント

行のはじめにスペースを入れて、新しい段落であることを示すことをインデント(字下げ)といいます。インデントの長さは「段落の変更が明確に分かる」程度を目安とします(3~4文字程度)。また、第1段落の一行目は文章の始まりが明らかですので、インデントは不要です。

インデントが長すぎる例：

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way.
Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed

インデントが短すぎる例：

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way.
Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed

*文字の基本的な形状が同じコンセプトで成り立っていて、ウエイト(文字の太さ)を段階的に変えて作られた書体のグループのことを「ファミリー」とよびます。

約物(やくもの)

アルファベットには文章を読みやすくするために様々な「約物」があります。

句読点：

コンマ<セミコロン<コロンの順で区切りの強さを表します。
この約物の前にはスペースを入れず、後に半角(一文字)分のスペースを入れます。

コンマ	セミコロン	コロンの	ピリオド
nnn,	nnn;	nnn:	nnn.
nn	nn	nn	nn

半角スペース

疑問符、感嘆符：

この約物の前にはスペースを入れず、後に半角(一文字)分のスペースを入れます。

疑問符	感嘆符
nnn?	nnn!
nn	nn

半角スペース

クォーテーションマーク(引用符)、アポストロフィ：

クォーテーションマークは文中で人の言葉を引用する時に使います。アポストロフィは所有格や省略で使います。シングルクォーテーションマークとダブルクォーテーションマークの使い分けに明確なルールはありませんが、ひとつの解説案内板の中で使い方を統一するという意識をください。

シングルクォーテーションマーク	ダブルクォーテーションマーク	アポストロフィ
‘nnn’	“nnn”	isn’t

パーレン、ハイフン：

パーレンとは丸括弧のこと。パーレンの内側はスペース無し、外側には単語間と同じスペースが入り、後ろのパーレンの後に約物が来る場合はスペースは不要です。ハイフンの前後は原則としてスペースは不要です。

パーレン	ハイフン
nn (nnn) nn	nnn-nnn
nn (nnn), nn	

スペース

頭揃えの改行

文字が表示される領域を、長方形あるいは正方形で区切り、行頭と文末の両方を揃えて文字を配置することを「箱組」と言います。それに対し、行頭のみを揃えるのが「頭揃え」です。

頭揃えの組版は箱組に比べ、文字間が均一になるため見た目の揃った美しい組版になります。ただし、それぞれの行の長さに差がありすぎると可読性が損なわれる恐れがあります。

行長の差が大きすぎる例：

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei. Indeed, each time I suffered a rebuff, I wished more than ever to push our friendship further. I thought that with greater intimacy, I would perhaps find in him those things that I looked for. I was very young, it is true. But I think that I would not have behaved quite so simply towards others. I did not understand then why it was that I

読みやすい組版の例：

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei. Indeed, each time I suffered a rebuff, I wished more than ever to push our friendship further. I thought that with greater intimacy, I would perhaps find in him those things that I looked for. I was very young, it is true. But I think that I would not have behaved quite so simply towards others. I did not understand then why it was that I should behave thus towards Sensei only. But now, when Sensei is dead, I am beginning to understand. It was not that Sensei disliked me

行末の折り返し位置は、
仮想線を挟んで
数文字程度の幅に収める。

最短の行
仮想線
最長の行



ぶら下がり

本文組み行頭に約物がある場合、および行末に約物があるような場合、その部分だけが引っ込んで見えることがあります。そこで約物だけを飛び出させ、文字がきちんと揃って見えるようにすることを「ぶら下がり」と呼びます。

ぶら下がりなしの例：

"This is hand-woven," she once said, pointing to a kimono of mine. "I have never worked on such beautiful material. But it's awfully difficult to sew. I have already broken two needles on it." should behave thus towards Sensei only. But now, when Sensei is

ぶら下がりありの例：

"This is hand-woven," she once said, pointing to a kimono of mine. "I have never worked on such beautiful material. But it's awfully difficult to sew. I have already broken two needles on it." should behave thus towards Sensei only. But now, when Sensei is dead, I am begin-

視覚補正

英単語を頭揃えする場合、単純に文字の物理的な左端で揃えようとすると、文字ごとのつくりの影響で、見た目に揃って見えないことがあります。同様に中心揃えの場合でも、単純に単語の物理的な左右幅の中心で揃えた場合、見た目に揃って見えないことがあります。いずれの場合も、きちんと揃って見えるように視覚的な補正が必要です。

頭揃え補正なしの例：

FOLK
TREASURE
CULTURE
ARCHITECTURE

頭揃え補正ありの例：

FOLK
TREASURE
CULTURE
ARCHITECTURE

Fよりも左に出す事で、揃って見える。

中心揃え補正なしの例：

FOLK CULTURAL
ART MUSEUM

中心揃え補正ありの例：

FOLK CULTURAL
ART MUSEUM

ワードスペース(大文字)

ワードスペースとは単語と単語の間隔を差します。
ワードスペースが広すぎると一連の文章として捉えにくくなります。
逆に、ワードスペースが狭すぎる場合、単語と単語が明確に分かれて見えず、ひと繋ぎの単語のようになってしまいます。

適切なワードスペースの例：

FOLK ART MUSEUM

広すぎるワードスペースの例：

FOLK ART MUSEUM

狭すぎるワードスペースの例：

FOLKARTMUSEUM

ワードスペース(小文字)

適切なワードスペースの例：

various areas of cultural administration

広すぎるワードスペースの例：

various areas of cultural administration

狭すぎるワードスペースの例：

variousareasofculturaladministration

**ワードスペース
(大文字+小文字)**

特にコンマやピリオドの後が大文字となる場合、「T」や「Y」が続くときと「M」や「H」などが続くときとでは見た目の空きが違います。

約物の後に調整なし：

Culture, Tokyo. History, Japan

約物の後に調整あり：

Culture, Tokyo. History, Japan

ワードスペース(長文)

長文におけるワードスペースは、文章量や行間、文字間、また書体によっても読みやすさに違いが出てきます。
ここではワードスペースの違いによる見え方の例を2つの書体で示します。

適切なワードスペース / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei.

ワードスペース広め / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to

ワードスペース狭め / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei.

適切なワードスペース / Myriad Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei.

ワードスペース広め / Myriad Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part

ワードスペース狭め / Myriad Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never felt any desire to part from Sensei.

行間(短文)

大文字と小文字が混じった短文の行間を書体を変えて比較します。
下記はどれが正解ということではなく、同じ行送りでも書体が変わると行間およびワードスペースの見え方に違いが出てくることを示した例です。

文字サイズ18pt 行送り18pt / Baskerville Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

文字サイズ18pt 行送り18pt / Gill Sans Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

文字サイズ18pt 行送り21pt / Baskerville Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

文字サイズ18pt 行送り21pt / Gill Sans Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

文字サイズ18pt 行送り24pt / Baskerville Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

文字サイズ18pt 行送り24pt / Gill Sans Regular

The Museum of
Modern Japanese Art

行間(長文)

長文の場合の行間の比較です。短文の場合と同じ設定比率でも印象や読みやすさに違いが出てきます。

文字サイズ12pt 行送り12pt / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments,

※上記のような行間は可読性が低いため使用しない

文字サイズ12pt 行送り14pt / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments,

文字サイズ12pt 行送り16pt / Baskerville Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments,

文字サイズ12pt 行送り12pt / Gill Sans Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never

※上記のような行間は可読性が低いため使用しない

文字サイズ12pt 行送り14pt / Gill Sans Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never

文字サイズ12pt 行送り16pt / Gill Sans Regular

Often, during my association with Sensei, I was disappointed in this way. Sometimes, Sensei seemed to know that I had been hurt, and sometimes, he seemed not to know. But no matter how often I experienced such trifling disappointments, I never

マージン

解説案内板における版面(文章や図版)の四方の余白が「マージン」です。マージンが狭すぎるとバランスが悪く余裕のない印象になりますので注意が必要です。

マージンが狭すぎる例：

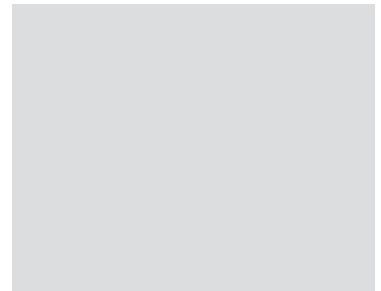
ABCDE TEMPLE

It was at Kamakura, during the summer holidays, that I first met Sensei. I was then a very young student. I went there at the insistence of a friend of mine, who had gone to Kamakura to swim. We were not together for long. It had taken me a few days to get together enough money to cover the necessary expenses, and it was only three days after my arrival that my friend received a telegram from home demanding his return. His mother, the telegram explained, was ill. My friend, however, did not believe this. For some time his parents had been trying to persuade him, much against his will, to marry a certain girl. According to our modern outlook, he was really too young to marry. Moreover, he was not in the least fond of the girl. It was in order to avoid an unpleasant situation that instead of going home, as he normally would have done, he had gone to the resort near Tokyo to spend his holidays. He showed me the telegram, and asked me what he should do. I did not know what to tell him. It was, however, clear that if his mother was truly ill, he should go home. And so he decided to leave after all. I, who had taken so much trouble to join my friend, was left alone.

There were many days left before the beginning of term, and I was free either to stay in Kamakura or to go home. I decided to stay. My friend was from a wealthy family in the Central Provinces, and had no financial worries. But being a young student, his standard of living was much the same as my own. I was therefore not obliged, when I found myself alone, to change my lodgings.

I walked to the sea every day, between thatched cottages that were old and smoke-blackened. The beach was always crowded with men and women, and at times the sea, like a public bath, would be covered with a mass of black heads. I never ceased to wonder how so many city holiday-makers could squeeze themselves into so small a town. Alone in this noisy and happy crowd, I managed to enjoy myself, dozing on the beach or splashing about in the water.

It was in the midst of this confusion that I found Sensei. In those days, there were two tea houses on the beach. For no particular reason, I had come to patronize one of them. Unlike those people with their great villas in the Hase area who had their own bathing huts, we in our part of the beach were obliged to make use of these tea houses



It was at Kamakura, during the summer holidays, that I first met Sensei. I was then a very young student. I went there at the insistence of a friend of mine, who had gone to Kamakura to swim. We were not together for long. It had taken me a few days to get together enough money to cover the necessary expenses, and it was only three days after my arrival that my friend received a telegram from home demanding his return. His mother, the telegram explained, was ill.

My friend, however, did not believe this. For some time his parents had been trying to persuade him, much against his will, to marry a certain girl. According to our modern outlook, he was really too young to marry. Moreover, he was not in the least fond of the girl. It was in order to avoid an unpleasant situation that instead of going home, as he normally would have done, he had gone to the resort near Tokyo to spend his holidays.

マージンをじゅうぶんに取った理想的な例：

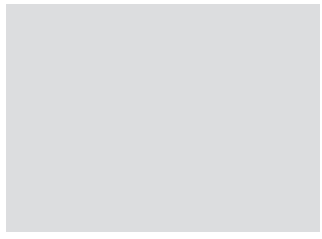
ABCDE TEMPLE

It was at Kamakura, during the summer holidays, that I first met Sensei. I was then a very young student. I went there at the insistence of a friend of mine, who had gone to Kamakura to swim. We were not together for long. It had taken me a few days to get together enough money to cover the necessary expenses, and it was only three days after my arrival that my friend received a telegram from home demanding his return. For some time his parents had been trying to persuade him, much against his will, to marry a certain girl. According to our modern outlook, he was really too young to marry. Moreover, he was not in the least fond of the girl. It was in order to avoid an unpleasant situation that instead of going home, as he normally would have done, he had gone to the resort near Tokyo to spend his holidays. He showed me the telegram, and asked me what he should do. I did not know what to tell him. It was, however, clear that if his mother was truly ill, he should go home. And so he decided to leave after all. I, who had taken so much trouble to join my friend, was left alone.

There were many days left before the beginning of term, and I was free either to stay in Kamakura or to go home. I decided to stay. My friend was from a wealthy family in the Central Provinces, and had no financial worries. But being a young student, his standard of living was much the same as my own. I was therefore not obliged, when I found myself alone, to change my lodgings.

My inn was in a rather out-of-the-way district of Kamakura, and if one wished to indulge in such fashionable pastimes as playing billiards and eating ice cream, one had to walk a long way across rice fields. If one went by rickshaw, it cost twenty as myself.

I walked to the sea every day, between thatched cottages that were old and smoke-blackened. The beach was always crowded with men and women, and at times the sea, like a public bath, would be covered with a mass of black heads. I never ceased to wonder how so many city holiday-makers could squeeze themselves into so



It was at Kamakura, during the summer holidays, that I first met Sensei. I was then a very young student. I went there at the insistence of a friend of mine, who had gone to Kamakura to swim. We were not together for long. It had taken me a few days to get together enough money to cover the necessary expenses, and it was only three days after my arrival that my friend received a telegram from home demanding his return. His mother, the telegram explained, was ill.

My friend, however, did not believe this. For some time his parents had been trying to persuade him, much against his will, to marry a certain girl. According to our modern outlook, he was really too young to marry. Moreover, he was not in the least fond of the

参考資料

2_10編集デザインの方針は以下の資料を参考にして作成しました。

高岡昌生著「増補改訂版 欧文組版 タイポグラフィの基礎とマナー」鳥有書林
The Chicago Manual of Style Seventeenth Edition, The University of Chicago Press
NEW OXFORD STYLE MANUAL, OXFORD UNIVERSITY PRESS
Jost Hochuli, Detail in typography, Book & Design

文化財ロゴマーク

5_1 位置付け / 対象範囲

文化財ロゴマークは、文化財であることを示すために使用します。文化財ロゴマークを使用する場合は、本指針に示す使用ルールや使用例・使用禁止例に準じて使用してください。

[対象]

- 国が指定等をした文化財
- 地方公共団体が指定等をした文化財

[利用条件]

- 編集デザインの方針(第4章P.26 編集デザインの方針)に準じた解説文であること

5_2 文化財ロゴマーク

文化財ロゴマークは文化財の存在を知らしめる役割を持っています。そのため文化財ロゴマークの使用にあたっては、本指針に準じて適切に使用してください。



原則、日本語・英語以外の言語を含む多言語解説案内板であってもこのロゴマークを使用します。

文化財ロゴマークはepsデータが用意されています。epsデータが必要な場合は、文化庁ホームページからダウンロードしてください。

5_3 最小使用サイズ

文化財ロゴマークは最小使用サイズを設定しています。文化財ロゴマークの識別性・可読性に欠けるため最小使用サイズより小さいサイズでの使用は原則、禁止です。



5_4 余白

文化財ロゴマークは「余白」を設定しています。余白は文化財ロゴマークの認識性を高め、より象徴的に示すために必要となります。

文化財ロゴマークの高さを基準「H」とした時、周囲に0.5Hの余白を設けるようにしてください。



5_5 カラー

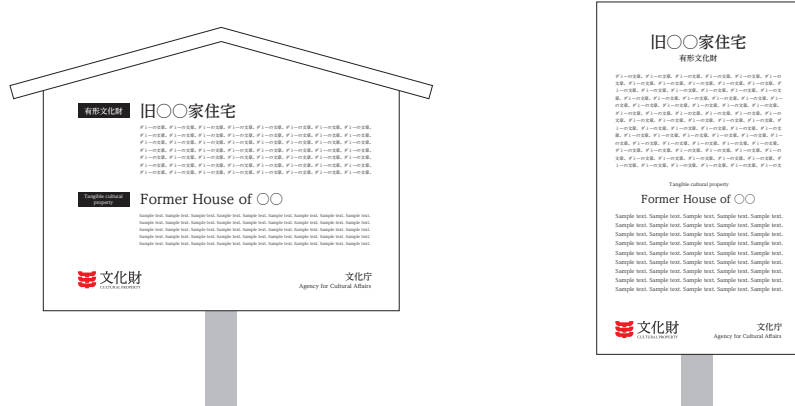
文化財ロゴマークは「カラー」を設定しています。

赤+黒での表示を基本としますが、解説案内板の基調色に合わせ、解説案内板の中で目立ち過ぎることのないようにしてください。

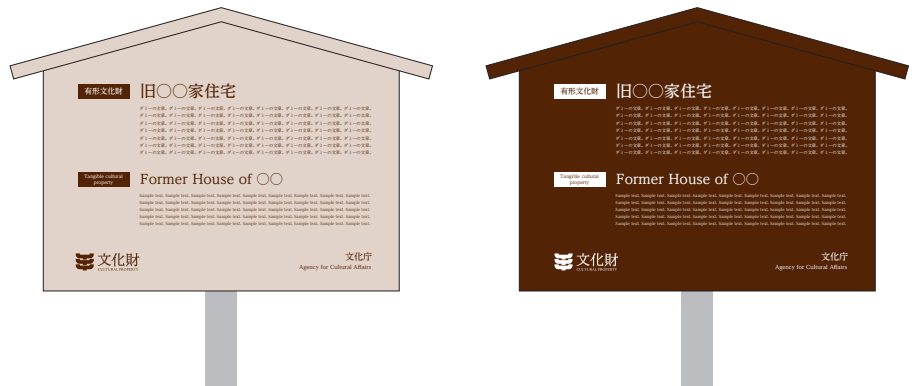


5_6 使用例

新規に制作した解説案内板での使用例(白背景+基本カラー)



新規に制作した解説案内板での使用例(黒以外の基調色)



5_7 使用禁止例



文化財ロゴマークの書体を変更しない



文化財ロゴマークのカラーリングを変えない



文化財ロゴマークを變形しない



文化財ロゴマークにシャドウを付けない



文化財ロゴマークの組み方を変えない



文化財ロゴマークに他の要素を加えない



文化財ロゴマークを改変しない

その他案内板の方針

その他案内板を適切に使用することを目的に、
警告案内板についての使用方針を示します。

6 警告案内板

[基本方針]

解説案内板を適切に示すために、警告案内板は以下の制作方針に従ってください。

設置

- 警告案内板と解説案内板は、可能な限り同一案内板に表示せず、それぞれの役割を考慮して異なる案内板として設置してください。
- 設置場所の制限から警告案内板と解説案内板を同一案内板にする場合、それぞれの役割を混在しないように罫線や囲みで仕切る等、明確な区別をするようにしてください。

警告内容

- 訪問する方への直接的な警告提示ではなく、心傷を害することなく効率的かつ効果的な行動につながる伝え方、文言を検討してください。

デザイン

- 「警告」という役割を理由に、解説案内板と一切無関係なデザインを施すのではなく、個々の文化財の事情に応じて、警告案内板としての十分な役割を果たすデザインを行ってください。
-